

## 121-1 駒場ケルネル田圃と渋谷のマチュピチュ天空庭園(7.0km)



渋谷のマチュピチュ（大橋ジャンクション）天空庭園

鎌倉時代は馬の放牧場、江戸に入ってからには将軍家直轄のお狩場になった 駒場から駒場・渋谷散歩をスタートする。東京でも屈指の高級住宅街・松濤の小さなレストランでイタリアンのお昼を食べてから時計回りに回って、南平台から大橋ジャンクション天空公園訪ねる。

### 【道順】

京王井の頭線駒場東大前駅→駒場野公園・ケルネル田んぼ（湧水）→日本民芸館→駒場公園・旧前田侯爵家洋館（水曜日から日曜日開館）・和館→日本近代文学館→東大構内・一二郎池（湧水）→鍋島松濤公園→【ポルトガルの台所マヌエル or イタリアン松濤マル】→神泉駅・円山→南平台・三木武夫元総理邸（記念館：渋谷区南平台町 18-20）・岸信介元総理私邸？→西郷山公園・菅狩公園→大橋ジャンクション天空公園→氷川神社→目黒川→東山貝塚公園（湧水）→池尻大橋駅

### 【イタリアン松濤マル】 本格イタリア料理

定休日曜 ランチ 1000 円以下 11:30~14:30

渋谷区松濤 1-27-7 03-3469-6920

<http://www.tamago-net.com/syomar/index.html>

### 【ポルトガルの台所マヌエル】 伝統的な家庭料理の店

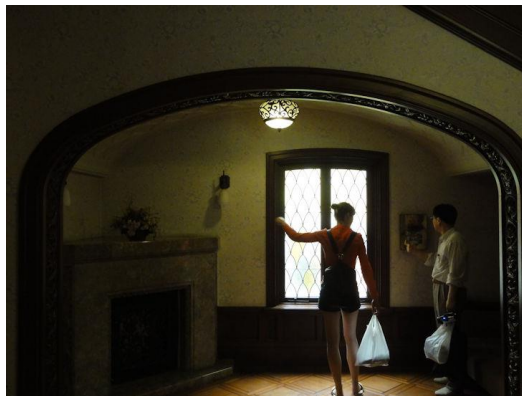
無休 ランチ 1000 円 11:30~14:30

渋谷区松濤 1-25-6 03-5738-0125

<https://ja-jp.facebook.com/Manuel.Shibuya>

#### ・ 駒場ケルネル田圃

東大駒場キャンパスの東は谷になっていて、ここには本郷の三四郎池に対して一二郎池と呼ばれ湧水がある。また西の端には駒場野公園があって、ここには旧駒場農学校の実験水田「ケルネル田んぼ」と湧水がある。ケルネル田んぼは、皇居内にある天皇陛下がお手植えや稲刈りをする田を除けば、ここがもっとも都心に近いものかも知れない。その名は、ドイツ人農学校教師であった、オスカー・ケルネルにちなむものである。



ケルネル田圃・旧前田侯爵家本邸で

#### ・ 柳宗悦と日本民芸館

日本民藝館を設立した柳宗悦は、東京府（現東京都）に生まれ、旧制学習院高等科を経て東京帝國大学卒業した。

彼は、いくらか地図・測量との関わりがあって、海図作成機関である初代水路部長（現海上保安庁海洋情報センター）であった海軍少将柳樹悦の三男である。また、弘道館柔道の嘉納治五郎は、柳宗悦の母勝子の弟にあたり、1911年（明治44年）に治五郎が千葉県の手賀沼畔に別荘を構えると宗悦も招かれここに住んだ。さらに志賀直哉らを呼び、我孫子に文人らが集結し白樺派文学が進展するきっかけをつくったことでも知られる。

旧制学習院高等科から東京帝國大学在学中に、同人雑誌グループ白樺派に参加。生活に即した民芸品に注目して「用の美」を唱え、民藝運動を起こし、1936年（昭和11年）、東京府東京市目黒区駒場（現東京都目黒区）に日本民藝館を設立した。

公道の向かい側には栃木県から移築した、明治時代に建設された石屋根の長屋門がある。

#### ・ 旧前田侯爵家本邸（洋館・和館） 重要文化財（建造物）

16代当主前田利為（としなり）は、相続により現在の東大本郷キャンパスの南西部（現在の東大総合博物館・東洋文化研究所付近）に壮大な敷地（旧加賀藩邸の敷地の一部）を

所有し、天皇を迎えるため和館（1905年（明治38年）・洋館（1907年（明治40年））を築造していた。1926年、彼はこれらの敷地・邸宅を東京帝国大学（当時）に譲り、代替用地として当時東京帝大農学部が所在していた駒場校地の一部を取得、ここに邸宅を新築した。その1929年（昭和4年）に建てられた洋館、昭和5年に建てられた書院造りの和館が現在の駒場公園内に現存している。ただし戦後、前田家の所有を離れている。建物は、当時、東京帝国大学教授であった塚本靖と、宮内省の担当技師であった高橋貞太郎が設計を担当し、チューダー・アーチと呼ばれる幅広で平たい尖頭アーチが特徴である。

なお、本郷の旧邸（和館・洋館）は東大の迎賓館「懐徳館」としてしばらく使用されたが、1945年（昭和20年）の東京大空襲により全壊・全焼した。

#### ・日本近代文学館

高見順、小田切進ら有志の文学者・研究者が、文学資料を収集・保存する施設の必要を広く訴え1963年4月に財団法人日本近代文学館が発足した。図書や雑誌を中心に、数々の名作の原稿も含め、107万点の資料を収蔵している。



一二郎池・鍋島松濤公園

#### ・鍋島松濤公園（湧水）

山の手は江戸時代から人口が少なかったが、維新後はほとんど空になってしまっていた。茶畑と桑畑に変わってしまう。それは、明治政府が使われていない土地を収用して農地に戻す政策を始めたからである。赤坂区だけで、一時は桑の畑が40ヘクタール以上にもなったという。そして渋谷も、いいお茶が出来るので有名になったという。

一帯は江戸時代には紀州徳川家の下屋敷があったところで、1876年（明治9年）に佐賀の鍋島家に払い下げられた。鍋島家は当地に茶園を開いて「松濤園」と名付け、「松濤」という名で茶の販売も行ってた。1932年（昭和7年）になると茶園は廃止され、湧水池のある一角が児童遊園として整備され、のちに東京市に寄贈された後、現在に至っている。

湧水池は渋谷界限でも数少ない湧き水のひとつである。そのほかにケルネル田んぼ（湧水）・東大一二郎池（湧水）・東山貝塚公園（湧水）なども訪ねる。

#### ・円山町

地形的にちょっと不思議な感じのする谷間に位置する神泉駅の南東にある円山町は、京都の円山から名づけられた芸妓屋、待合、料理屋からなる三業地である。その中心になったのが、神泉（谷）にあった「弘法の湯」である。三業地とし栄えたのは、渋谷という交通の要衝に近かったことのほかに、駒場や池尻に軍隊施設が点在していたからである。

#### ・三木武夫記念館

三木武夫記念館は、京王井の頭線神泉駅のさらに南東にあつて、元首相三木武夫の旧居を記念館として公開していたもの。

三木武夫は昭和 49 年（1974 年）、田中角栄の後の自民党総裁として第 66 代内閣総理大臣に就任し、ロッキード事件の究明にあたって「クリーン三木」とも呼ばれた。しかし党内での反発と昭和 51 年（1976 年）の総選挙での自民党大敗の責任をとる形で総辞職した。

記念館は旧山手通りから少し北へ入ったところにあり、建物は落ち着いた静かなたたずまい。建物の 2 階が記念館になっており、三木武夫の書や絵画などを展示している。はず向かいには岸信介の私邸があった。

\* 管理上の都合により平成 24 年（2012 年）4 月末をもって閉館している。

#### ・西郷山公園

かつて段丘上には三田用水が流れた辺りは、旧西郷邸（西郷従道の敷地）の北東部分にあたり、付近の人々から「西郷山」という通称で親しまれていたところから名づけられた。台地の端の斜面を利用してつくられた公園で、斜面には 20 メートルの落差をもつ人工の滝が作られているほか、ゆるやかな坂道の園路や展望台が設けられ、冬がよく晴れた日には遠くの富士山も望める。

下に菅狩公園（火曜休館）があつて、明治天皇西郷邸を行幸し前庭で行われた天覧相撲を 2 階のバルコニーからご覧になったことから、行幸碑が立つ。南東方向へ西郷従道四男が養子に入った上村彦之丞邸跡（上村坂）、岩倉具視邸跡と続いていた。

#### ・天空公園

目黒区大橋にある首都高速道路大橋ジャンクションの屋上にオープンした巨大なループ状の公園。全国初のジャンクション上公園となる同園は、「1 周 400 メートル、総面積約 7000 平方メートルの敷地に、高木・中木およそ 1000 本、低木・地被類およそ 3 万株を植栽。緑豊かな園内を回遊し、四季折々の自然や日本の文化に親しむことができる」と言うのが謳い文句。不思議な風景が味わえる。

## 自 然

私と一緒に日本の地図を広げて下さい。故国の地図はいつ見ても見厭きません。その島や岬や港や町はみんな物語を有っているからであります。山や河や平野や湖水も、それぞれに歴史を語っているからであります。この親しい国を離れて吾々の生活はありません。地図はいつ見ても私たちに母国への愛を呼び醒まします。どの国の人といえどもその国に生れたという運命に、どこまでも感謝と誇りとを有つことが務めではないでしょうか。

日本の姿ともいえるその地図を、今日はまた新たな見方から眺めましょう。見ても見厭きないのは、見る毎に何か新しい日本の姿が浮んでくるからであります。今日眺めようというのは、他でもありません。北から中央、さては西や南にかけて、この日本が今どんな固有の品物を作ったり用いたりしているかということでもあります。これは何より地理と深い関係を持ちます。気候風土を離れて、品物は決して生れては来ないからであります。どの地方にどんな物があるかということを考えて、地図がまた新しい意味を現して来ます。仮りに図面に、各地で出来る品物の絵を描いて見るとしましょう。それはとても面白い地図となるでしょう。南の方では焼物が美しく肩を並べていたり、北の方では蓑だとか藁沓だとかが大変綺麗に編んであったりするのを見かけます。そうかと思ふと離れ島の八丈には、黄色い立派な織物が描いてあったりするのを見出します。この本はそういう地図を皆さんにお見せするために書かれるのであります。

柳宗悦の『手仕事の日本』まえがきには、地理と地図に触れた左のような一文がある。

# ルートマップ



++++ オフィス 地図豆 Yamaoka mitsuharu +++++